

「共生と自立」の視点に立った 生き方探究教育のさらなる充実を求めて
 — 「自己理解能力・将来設計能力」を育てる指導の実際 —

河野 由佳

各教科等の枠を超えて、人権教育・安全教育・環境教育などのすべての教育活動を束ね、生き方を考え、生きる力をはぐくむ教育。この「生き方探究教育」を実践することにより、子どもたちは将来の自分に思いを馳せ、今を精一杯生きようとするのではないだろうか。「夢や職業」「生き方」に視点をおいた教育活動を展開し、一人一人のキャリア発達を支援することにより、子どもたちは、自己の在り方を見つめ、生き方を考えることができるのではないかと考え、研究を進めた。

本研究では、「自己の夢をつくりあげる力（自己理解能力・将来設計能力）」に焦点を当て、各教科等の実践授業を通して検討した上で、具体的な指導の在り方を提示した。

第1章 「共生と自立」の視点に立った
 生き方探究教育

第1節 「『生き方探究教育』キャリア教育
 京都市スタンダード」が示すもの

生き方探究教育とは、「共生と自立」の視点に立ち、今まで学んで得た知識や技能などを、自分の将来にどう生かしていくのかという自己実現に向けた教育である。子どもが自らの生き方を主体的に選択・決定し、よりよく生きていこうとする意欲・態度や能力の育成をめざしている。

第2節 小学校における生き方探究教育

小学校段階でめざしているものは、自分や他者、社会や環境に関心をもつことや、夢をもち、それを叶えるために、将来必要となるコミュニケーションや情報収集、計画実行などの基礎的能力をはぐくむことである。

実際に生き方探究教育を進めるにあたっては、次のようなことが大切になってくる。

- ・ 既存の教育活動を、生き方探究教育で育てたい力（5領域17の力）に視点を当てて、整理し直すこと
- ・ 足りない観点の教育活動を補うこと
- ・ 生き方探究教育にかかわる体験活動を有効に活用すること
- ・ 個に応じた教育相談活動を充実させること

第2章 「自己理解能力・将来設計能力」を
 育てる教育活動

第1節 「自己の夢をつくりあげる力」に
 視点をおいた授業改善

将来の生き方や生活を考えるにあたっては、自分の特性を知るといった自己理解を深めた上で、夢や将来像を描き、自己実現をめざすことが必要

となってくる。「自己の夢をつくりあげる力」をはぐくむ8つの要素(図1)を、「夢や職業」「生き方」に視点をおいた教育活動の中に意図的に組み入れていくことが大切になる。

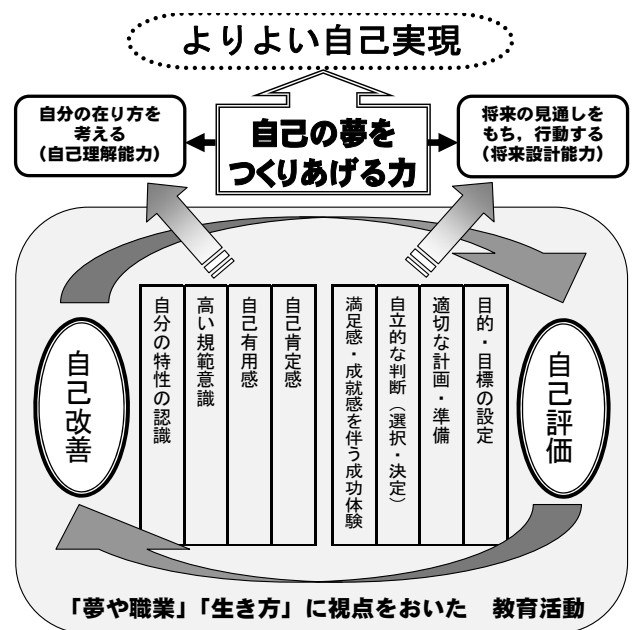


図1 「自己の夢をつくりあげる力」をはぐくむ要素

また、指導者が、子どもにつけたい力を意識して取組を進めることができるように、学習指導案(学習活動案)上に工夫を施し、具体的な支援と「5領域17の力」を明記することとした。

第2節 一人一人を大切に
 個に対する働きかけ

子どもたちがよりよい自己の在り方や生き方を考えて将来を設計していくことができるようになるためには、個別またはグループ別に行う、継続的・意図的な指導や援助が必要だと考え、「相談活動」(図2)として位置づけることにした。

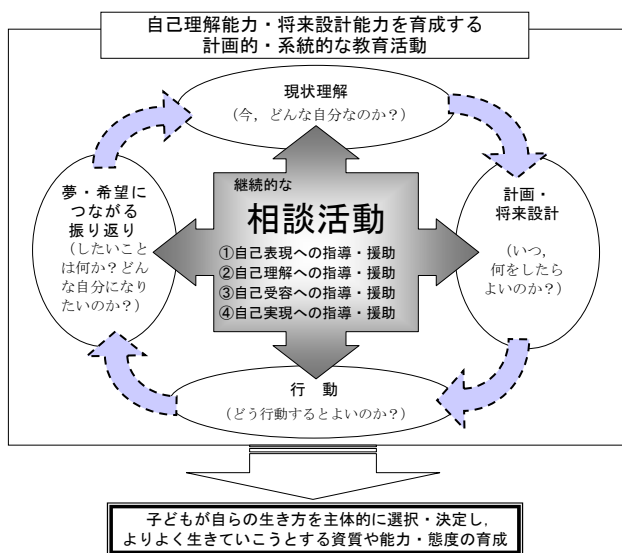


図2 相談活動の働き

また、自己理解能力・将来設計能力をはぐくむためには、子どもが、今の自分の姿や能力を的確に把握し、これから先の自分の姿を思い描く力、つまり目標を設定する力が必要になってくる。そこで、振り返りカードに工夫を加え、自己評価や次時の目標設定の際に活用した。

第3章 小学校での実践授業を通して

第1節 第2学年「生活科」

～自分のめあてをもち、計画を立てることの 大切さがわかる取組～

『わたしのまちをたんけんしよう』の単元では、町探検計画を立てたり、インタビュー練習をしたりする活動を取り入れることにより、「地域と共に生きる力」だけでなく、「計画を企画し実行する力」も育てることができた。

また、毎時間、振り返りカードに、「がんばったこと・こんどやってみいたいこと」を書くことにより、子どもたちの自己評価能力が高まり、次の学習における、自分のめあてをもつことができた。

第2節 第4学年「道徳」「特別活動」

～働くことや目標・希望をもつことの 大切さについて考える取組～

道徳では、社会科と関連づけて、「なぜ働くのか考える」という学習内容を補った。また、特別活動では、“1/2成人式”を企画し、国語科と関連づけて、10年後の自分への手紙を書き、「どのような大人になりたいか」ということを発表した。

他教科等との関連を意識して横断的な学習を進めることは、自分の在り方や将来像を考える上で、大変有意義であり、効果的であった。

第3節 第6学年「総合的な学習の時間」

～夢の実現のために計画を立て、 将来について語り合う取組～

「ぼくら 生き方探検隊!」の単元では、保育士体験を通して、仕事に対する理解を深めたり、計画・実行することや役割・責任を果たすことの大切さを実感したりすることができた。

また、今までの様々な職業体験をもとに、自分の夢や希望、将来設計を書き表し、友だちと語り合うことによって、夢の実現のために前向きに努力しようという意欲が高まった。

第4章 生き方探究教育の

さらなる充実を求めて

第1節 研究の成果と課題

学習計画の工夫や、学習内容と育てたい力との関連による授業改善では、次の成果が見られた。

- ①「夢や職業」「生き方」に視点をおくことにより、自己の在り方を見つめ、将来の夢や希望を抱くことができ、学習意欲が高まった。
- ②他教科との関連を意識した横断的な教育活動を展開することにより、勤労観・職業観を深めることができた。
- ③5領域17の力を学習指導案上に明記することにより、指導者の意識が高まった。

また、相談活動や評価活動における個に対する働きかけについては、次の成果が見られた。

- ①ものごとや自分の在り方を肯定的にとらえたり、よりよい選択・決定をしたりすることができるようになった。
- ②子どもの自己評価能力が高まった。
- ③前時の自己評価をもとに、学習に対する具体的な自分のめあてをもつことができるようになった。
- ④指導者が、子ども一人一人のキャリア発達を詳細に把握することができるようになった。

一方、課題としては、発達段階に応じた系統的な学習計画の作成、ポートフォリオの活用、研修組織の充実などが挙げられる。

第2節 今後の取組に向けて

今後は、各学校が、実態に応じた生き方探究教育の全体計画や年間指導計画などの構想をもち、系統的な取組を推進していくことが大切であると考える。

また、小・中学校の連携のもとで、9年間の自らの変容や成長を実感させることができるような教育活動を展開することが望まれる。